

## 【NEWS RELEASE】

2022年5月13日

各 位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

気候変動に対する取組の強化について

株式会社三井住友フィナンシャルグループ（執行役社長グループ CEO：太田 純、以下、当社グループを総称して「SMBCグループ」）は、気候変動対応の高度化の状況について、「気候変動に対する取組の強化」として公表します。

（URL）「気候変動に対する取組の強化」

[https://www.smgf.co.jp/news/pdf/j20220513\\_04.pdf](https://www.smgf.co.jp/news/pdf/j20220513_04.pdf)

SMBCグループは、世界が直面している気候変動への対応、生物多様性の保全、人権の保護といった、環境・社会課題への対応に全力で取り組み、また、お客さまの取組やイノベーション技術への支援を一層拡大することで、サステナビリティの実現に貢献してまいります。

以 上

## (別添資料)「気候変動に対する取組の強化」のポイント

### 1. 石炭火力発電に対するフェーズアウト戦略の拡充

SMBC グループでは、石炭火力発電向けプロジェクトファイナンスの貸出金残高を、2040 年度を目途にゼロにする目標を設定しています。

今回、これに加えて、設備に紐付くコーポレートファイナンスの貸出金残高を 2040 年度までにゼロとする目標を、新たに設定します。

### 2. 投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量ネットゼロへの取組

SMBC グループは、2021 年 10 月に Net Zero Banking Alliance (NZBA) に加盟し、2050 年の投融資ポートフォリオ全体での温室効果ガス (Greenhouse gas/GHG) 排出量ネットゼロにコミットしています。ネットゼロ達成に向けて、まずは三井住友銀行 (頭取 CEO: 高島 誠) における電力、エネルギーセクターを対象として算定を開始し、削減目標策定を進めています。

今回、電力セクターにおける投融資ポートフォリオ GHG 排出量 (Financed Emissions/FE) の中間削減目標を設定したほか、エネルギーセクターでは実績値を公表します。

#### ① 電力セクターにおける FE 中間削減目標の設定

炭素強度を、現在の 332gCO<sub>2</sub>e/kWh から、2030 年には 138~195gCO<sub>2</sub>e/kWh へと削減する目標を設定します。

#### ② エネルギーセクターにおける FE 実績値

石油ガス及び石炭採掘セクターを対象に、FE の絶対排出量を算定しています。現時点での排出量は、87.6MtCO<sub>2</sub>e となります。また中間削減目標については、「SMBC グループ TCFD レポート 2022」(本年 8 月公表予定)にて設定する予定です。

### 3. 組織改定

SMBC グループでは、サステナビリティへの取組に関する態勢強化を目的に、「サステナビリティ本部」および「環境社会リスク管理室」を設置しています。サステナビリティに関する機能・知見をグループベースで集約の上、リソースを増強して環境・社会課題への対応力を増強すると共に、ビジネス推進を支えるリスク管理体制も強化することで、経営態勢の高度化を図ります。

### 4. 役員報酬における定量的な ESG 評価項目の導入

SMBC グループでは、2020 年度より、中期業績連動報酬における定性項目の一つとして「ESG への取組」を組み入れ、気候変動対応を含むサステナビリティ関連の長期目標の達成度等を役員報酬に反映させています。

これに加え、2022 年度より、単年度業績連動報酬にも ESG 評価を拡大します。単年度の ESG への取組について、「SMBC Group GREEN×GLOBE 2030」に掲げる主要な社内 KPI の単年度の達成度及び主要な外部評価機関の評価結果に応じて、社外取締役が過半数を占める報酬委員会で評価を決定し、最大±10%の範囲で単年度業績連動報酬に反映させます。

## 5. 規程・方針改定

気候変動への対応、生物多様性の保全、人権の保護等、環境・社会課題の解決に向けて、金融機関に求められる役割がますます広がる中、そうした課題に対する SMBC グループの基本姿勢や対応方針を整理し、ステークホルダーの皆さまに対する説明力の向上を図ることを目的として、「SMBC グループ 環境・社会フレームワーク」を策定しました。

## 6. 自社 GHG 排出量 (Scope1, 2) 削減

SMBC グループは、自らが排出する GHG を 2030 年において実質ゼロにすることをコミットしています。

当該 Scope1, 2 のネットゼロ実現に向けた取組みの一環として、4 本部ビル（本店、東館、大阪本店、神戸本部）で使用するすべての電力を再生可能エネルギーに変更しているほか、当社が保有する遊休スペースに、メガバンク初となるメガソーラー発電設備を設置し、今年度の運用開始を予定しています。

## 7. 気候変動シナリオ分析の高度化

三井住友銀行では、エネルギー、電力セクターを対象に、移行リスクにおける気候変動シナリオ分析を実施し、財務的影響を算定しています。

今回、自動車および鉄鋼セクターを対象に追加し、シナリオ分析を高度化します。シナリオについては、IEA（国際エネルギー機関）の「Net Zero by 2050」シナリオ、NGFS（Network for Greening the Financial System/気候変動リスク等に係る金融当局ネットワーク）の Net Zero シナリオ等を使用し、各々のシナリオの下で見込まれるセクター毎の信用リスクへの影響を勘案のうえ、2050 年までに想定される与信関係費用を算定しました。4 セクター合計で、単年度で 25～280 億円の増加が見込まれる算定結果となりました。

## 8. サステナブルビジネス強化のための取組

SMBC グループにおける 2021 年度のサステナブルファイナンスの取組実績は 5.4 兆円となり、2020 年度実績からは 78%の増加（為替影響を除く）となります。

また、サステナビリティ関連の新たなソリューション開発等を企図し、200 億円の「サステナビリティ投資枠」を設定しています。今回、その第一号案件として、カーボンクレジット取引の決済プラットフォーム “Carbonplace” に参画いたします。

## 9. 責任投資を通じたネットゼロへの取組

三井住友 DS アセットマネジメント（代表取締役社長兼 CEO：猿田隆）は、2050 年の投資ポートフォリオ全体での GHG 排出量ネットゼロの実現を目指すグローバルな資産運用会社によるイニシアティブである Net Zero Asset Managers Initiative（NZAMI）に加盟しました。三井住友 DS アセットマネジメントは、責任ある機関投資家として、脱炭素社会実現に向けた投資先企業の取り組みを支援してまいります。

以 上